

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 171 号 (2024 年 5 月号)

いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



ウォーキングするのに、とても良い季節ですね。私は、ここ数ヶ月、毎日 5,000 歩以上歩くのを目標としています。モチベーションを保つために、導入したのがスマホのアプリです。目標歩数を達成できたら、ポイントがもらえるシステムで、あと何歩歩けば良いのか視覚的に分かります。私が家に帰ると、子どもたちがまず歩数をチェック。たまに目標まで数百歩足りないときがあると、子どもたちが私のスマホを持って、家中を歩き回り、歩数を稼いでくれます。子どもたちよ、ありがとう！でも、これって意味あるのかなあと時々、父さん、分からなくなります笑



今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。

(2024. 05. 01)



与えているようで...

いつ頃からでしょうか??

「与えられるよりも与えなくては」と思うようになったのは。意識していたかは定かではありませんが、結婚をして、子どもが与えられた時が最初だったかもしれません。また見習い牧師から正牧師となった 30 歳前半ごろに、その思いが増していったような気がするのです。さらに 40 代、父を介護するようになって、両親をケアする側になったと感じました。

一人っ子で、甘えん坊の私は、両親から全力で与えられ、大切に育てられたのです。身体が弱く、夜中に熱を出すことが多かった私をよく“救急病院”に連れて行ってくれました。そんな私が逆に、父の病院に付き添うことになるとは想像もしませんでした。私は父の病院に付き添いながら、もう自分は父からケアされることはないと思ったのです。けれど父と長い時間ともにいて、たくさん話しをする中で(一方的に私が話し、聴いてもらっていたのですが)、私の心は確かに癒やされていきました。ケアする私が、父からケアされていたのです。子どもの時と変わらずに。



映像作家の中村佑子さんも同じような経験をされ、そのことを新聞に寄稿しておられました。彼女は長く心の病を抱えられたお母様を看病しながら、子育てをする中で、一つの気づきを与えられるのです。

...ケアとは「お世話をしあげる/してもらおう」などということではなく、なによりもまず「他者の痛みを感じる」ということだと思っていた。他者の痛みや弱さを感じることで、その人の存在を自分のそばにありありと感じとる。それがケアのはじまりなのだ。

そして私は思う。ケアには与える者と与えられる者がいるというのは本当だろうか。ケアの深いところにある感情は「ケアは与えているようで、与えられている」というものではないかと。...

先日、入院した母の面会に、柿の葉寿司を持っていった。...その日の母は状態が悪く、お寿司をまったく食べてくれなかったが、私の方は母の顔を見た瞬間、急にお腹が空いて、面会室で母の分のお寿司をパクパクとすべて食べてしまった。





私はケアをしに行っているような気持ちでいたが、やはりかわらず母の「子ども」であった。母の顔を見れば安心してお腹が空き、彼女の前でなら平和にたくさん食べられる、そういう「子ども」を、私はまだ生きていた。たくさんのケアを私は母から受けてきただろう。ただそれを返礼しているにすぎないと思えた。人は病を得たり、また良くなったりしながら生きていく。心身の不調はみなで一緒に支える。私たちは生きるというプロジェクトを共有している同志にすぎないのだと。

【朝日新聞デジタル 2024. 1. 11 「解なき今を照らすために」より】

「ケアは与えているようで、与えられている」「私たちは生きるというプロジェクトを共有している同志にすぎない」ということばがとても印象的でした。父とのこともそうですが、子どもたちからもたくさん与えられています。どんなにめちゃくちゃな私でも、子どもたちは愛してくれるのです。これは私を愛しないと食いつぱぐれてしまうという恐怖心からではないでしょう。彼らは口に出しては言いませんが、“生きる”を共有する同志となってくれているのです。彼らのことばに、彼らの寝顔に、彼らの抱擁に何度救われたことか。



牧師としても、たくさん与えられているのです。高松に遣わされたとき、私はものすごく気負っていました。元気のないクリスチャンをカづけよう。たくさんの困っている人を助けよう。オレの力で教会を盛り上げよう。

数年もしないうちに、見事に挫折しました。自分の無力さを嫌というほど思い知らされたのです。そのとき、私は牧師として「与えているようで、与えられている」存在なのだと教えられました。教会は牧師の頑張り次第で、何とかなるものではないのです。教会はイエス様を信じる一人ひとりが、イエス様を中心に生きるというプロジェクトを共有している家族だからです。



けれど普通の家族に様々な戦いがあるように、教会にも戦いがあります。悩んだり、痛みを経験することもしばしば。そのような中で、自分たちの弱さ・痛みを分かち合い、ともに支え合い、私たちの天の父なる神様に祈る。確かに祈ることで、すぐに何もかも解決するわけではありません。でも祈ることで、ともに父なる神様に近づき、父なる神様のもとで憩うことができるのです。それだけでなく父なる神様が私たちの弱さ・痛みを知ってくださいという安心感が与えられます。

このように祈り、祈られ、ともに祈り合う中で、教会はイエス様にあって、お互いをケアし、支え合っているのです。ぜひ、イエス様にあって生きるというプロジェクトを共有する家族となれますように。

あなたがたの思い煩いを、
いっさい神にゆだねなさい。
神があなたがたのことを
心配してくださるからです。



最近、妻に「教会・キリスト教についてよく知らない人は、クリスチャンだけしか礼拝に参加できないと思っているみたい」と言われました。小さい頃から教会に通っている私にとって、目からウロコでした。毎週日曜日の10時30分から行われている礼拝は、すべての人が参加できます。何も持たず、服装も自由、手ぶらでOKです。事前に礼拝の様子を見たい方は、ホームページから見るすることができます。そういえば「目から鱗が落ちる」は聖書が語源なんですよ！



- 礼拝 毎週日曜日 10:30~12:00
- 祈禱会 毎週水曜日 19:00~20:00
- イズミン・キッズ 毎週日曜日 9:30~10:20
- おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~13:30
- Friendly English 毎週木曜日 9:30~11:50 (大人向け)

